

中学生の時から夢を実現するために がんばっている先輩の紹介です

紹介する先輩は「西尾実紗」さんです。
羽曳野支援学校の阪南分教室に3年生の時に在籍していました。

西尾さんは中学生の時から看護師になりたいという夢がありました。
お父さんが病気で、看護師になって自分で何かしてあげたいと思ったからです。

西尾さんは、その夢を実現するためには目標の高校へ行くことが必要だと考え、規制の多い入院生活の中でも、受験勉強を頑張りました。希望の高校へは見事合格し、デイサービスの勤務を経て現在は関西看護学校の3年生です。

そして今回、羽曳野支援学校本校がある「はびきの医療センター」で看護学生として、入院している子どもたちに寄り添いました。
卒業後は奈良医大への採用が決まっています。



西尾さんへのインタビューです

○羽曳野支援学校での学校生活はどうだった？
→慣れるまでが大変でした。

○入院中よかったことは？
→入院生活はしんどかったが、学習面では少人数で集中的に教えてもらえてよかった。
学校の先生とも仲良くなれていろんな話ができよかった。

○高校受験はどうだった？
→補習を受けたり大変だったが頑張れました。
看護師になるためには目標の学校に行かないといけないという強い思いがありました。

○高校生活はどうだった？
→とても楽しかったです。
友だちもできて、いまでも付き合いがあります。

○将来の夢は？
→認定看護師になることです。



後輩に一言

漫画『ひっくり返ったおもちゃ箱』の「一時の苦痛はそのあとにすばらしいことが起こる前ぶれ」という言葉が大好きで私の支えです。この言葉で、生きていればきっといいことがあるから頑張ろうと思うことができました。
みなさんには好きな言葉がありますか？
紙面上でもこうして羽曳野支援学校のみなさんにご縁をいただけて本当に嬉しいです。
みなさんに幸せが訪れることを心から祈っています。

